3　各国における輸出規制の動き（2015年1月現在）

2010年８月のロシアの干ばつによる小麦等の輸出禁止措置以降、これに追随して旧ソ連諸国等が穀物の輸出規制を実施したが、2011年に入り穀物の生産が回復してきたこともあり、当該規制措置を緩和する動きが顕著となった。

主な輸出国における輸出規制の状況

2010年８月５日、ロシアのプーチン首相は、干ばつによる穀物の減産から８月15日以降の小麦、大麦等の穀物の輸出禁止を決定した。これに続き、旧ソ連諸国では、ウクライナが2010年10月19日以降、小麦等の穀物の輸出割当を導入し、カザフスタンも油糧種子の輸出を禁止した。

2011年に入り、干ばつ等からの回復による小麦・大麦の単収向上による穀物生産量の回復が見込まれたこと等から、ロシアは穀物の輸出禁止措置を2011年７月１日から解除した。ウクライナにおいても、小麦・とうもろこしの豊作が見込まれたことから、2011年10月22日より、これらに係る輸出税を廃止。大麦についても当初期限通り2012年1月に廃止された。

インドにおいても、小麦の生産量が史上最高の87百万トンとなることが見込まれる中で米や小麦等の穀物在庫が積み上がり、備蓄スペースの問題が深刻化。このため、2011年９月８日、４年にわたる小麦及び米（非バスマティ米）の輸出禁止措置を解除し、輸出枠を設定。

アルゼンチンでは、輸出規制に対して生産者や穀物輸出業者の反対が強いため、各年度の作況を踏まえつつ輸出枠数量を調整。

2012/13年度は、ロシアやウクライナで乾燥被害等による穀物の大幅減産が見込まれ、ウクライナでは2012年10月24日に農相が「11月15日から小麦の輸出は禁止されるだろう」と発言したが実施はされなかった。ロシアでは農相が2012年11月７日の「穀物の国家備蓄在庫売却に関する作業部会」で穀物輸出の制限は不適と言明。一方、アルゼンチンでは2012年６月に2012/13年産小麦の輸出枠を600万トンに設定したが、国内需給を満たすため12月に450万トンに下方修正。

2013/14年度は、アルゼンチンがとうもろこしの増産見込みを受け、当初から輸出枠を1,600万トンと多めに設定。また、小麦については2012/13年度に輸出枠を下方修正した経験を踏まえ、輸出枠を150万トンに設定し、2014年1月13日、2月28日、4月27日にそれぞれ50万トンずつ段階的に輸出許可を行うとともに、10月22日に50万トンの追加の輸出許可。

2014/15年度は、アルゼンチンがとうもろこし800万トン、小麦150万トンの輸出枠を設定（2014年11月7日）。12月11日に小麦の輸出枠を100万トン追加。

なお、ロシアは、2014年12月25日、 原油価格の下落、ウクライナ情勢に基づく経済制裁等を背景にルーブルが下落し、ドル建て取引の穀物輸出が進むとともに、国内価格が上昇し、政府買入在庫の積み増しも困難になったため、2015年2月1日～2015年6月30日の予定で、小麦に輸出税（15％＋7.5ユーロ／トン。ただし、35ユーロを下回らない。）を導入することを政府決定。

＜2010年８月以降の輸出規制等の主な動き＞

◇　ロ　シ　ア　：小麦、大麦、とうもろこし等の穀物の輸出禁止措置を実施（2010年８月15日～2011年６月30日）。
小麦に輸出税を賦課予定（2015年2月1日～2015年6月30日）。

◇　ウクライナ　：小麦、大麦、とうもろこし、ライ麦、そばの輸出割当を実施（2010年10月19日～2011年６月30日）。
とうもろこしは2011年５月５日、小麦・大麦は2011年６月３日にそれぞれ規制廃止。
：小麦、大麦、とうもろこしに輸出税を賦課（2011年7月1日～2012年1月1日）。10月22日から小麦及びとうもろこしの輸出税を廃止。

◇　インド　：小麦、米（非バスマティ米）の輸出禁止措置を解除し、それぞれについて200万トンの輸出枠を設定（2011年９月８日）。
2012年２月７日、非バスマティ米の輸出枠を400万トンに引き上げ。

◇　アルゼンチン：2012/13年度の小麦の輸出枠を600万トンに設定（2012年６月19日）。
2012/13年度の小麦の輸出枠を600万トンから450万トンへ下方修正（2012年12月8日付け報道）。
2012/13年度のとうもろこしの輸出枠数量を1500万トンに設定（2012年７月16日）。
2012/13年度のとうもろこしの輸出枠数量に200万トンを追加して合計1700万トンに拡大（2013年３月22日）。
2012/13年度のとうもろこしの輸出枠数量に300万トンを追加して合計2000万トンに拡大（2013年9月11日付け報道）。
2013/14年度のとうもろこしの輸出枠数量を1600万トンに設定（2013年6月26日）。
2013/14年度の小麦の輸出枠を150万トンに設定、2014年1月13日、2月26日、4月27日にそれぞれ50万トンずつ段階的に輸出許可。
2013/14年度の小麦の輸出枠に50万トンを追加して合計200万トンに拡大（2014年10月22日）。
2014/15年度のとうもろこしの輸出枠を800万トンに設定（2014月11月7日）。輸出許可は来年3月15日以降。
2014/15年度の小麦の輸出枠を150万トンに設定（2014月11月7日）。
2014/15年度の小麦の輸出枠に100万トンを追加して合計250万トンに拡大（2014年12月11日）。

資料：ＩＧＣ（国際穀物理事会）、各国政府公表資料等による。
注：なお、青字は輸出規制の緩和措置